

筑前国怡土庄故地現地調査速報

服部, 英雄
九州大学大学院比較社会文化研究院 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1520164>

出版情報 : 1999-12-31. 服部英雄研究室
バージョン :
権利関係 :

志摩町御床地区

修士1年 三村 講介

学部3年 南里 宏生

留学生 ユディット・フローリッシュ

平成9年8月5日(火)実施

訪問先：鎌田照夫(64歳、前区長)さん宅

話者：鎌田さんご夫妻

【「ほのけ」新判明分】

しおやけ…照夫さん所有の田の呼び名。昔この付近は海だったので、この田も最初は塩分が出て地味が悪かった。そこでこのような呼び名が付いたそう。ちなみに今は普通の田と同じように収穫があるとのこと。

たもとなり…ここは照夫さん所有の田ではないが、このように呼んでいたのを聞いたことがあるそう。田の形が着物のたもとに似ているように見えたことからこの名が付いた。

たっちょう…『附録』によると「たつちう」だが、地元ではこの呼び名。この地域に西林寺があることから、「塔頭」という漢字が当てはめられるだろう。

「明治十五年字小名調」と、実際の呼び名の異同

徳房師「とくふし」→「とくぼうし」

美無「びなし」→「びんなし」

「明治十五年字小名調」に記載されていない未確認のもの

「神浦、上浦(かみのうら)」「かなこしやしき」「上屋敷」「くわんのんやしき、谷」「石脇」「寺前」
「新川」「登口」「執行林(しゆきやうはやし)」「胡麻田」

その他は小名とほぼ一致しているか、不明である。

【水利慣行について】

井手の名前などは聞けなかった(鎌田さんが知らなかった)。ただ、御床地区の田の水はほとんど周囲にあるため池から用水路を使って引いているということであった。照夫さん所有の「しおやけ」の田の水は「森畑溜池」から来ているそうである。

【寺社・祭礼関係の話】

①志々岐社…御床地区で一番信仰が厚い神社。神主が常駐している。御床・貝塚・寺山・小富士地区までの広範囲が信仰圏。

・祭礼…正月元旦

4月29日 春の祭典

6月末～7月初の田植えの頃 せんどじおい(千度潮井)

ここの千度潮井は石を拾ってそれを塩水に浸けてお宮に持っていくというもの。
そのあと、お昼には弁当を広げて部落のみんなで会食するそうである。

7月末 かない（家内）ごもり

8月末～9月初 風止め（田に台風の被害が及ばないようにという祈りを込める）

10月末 神立ち（かんたち） 神様が出雲大社に行くので…。

神待ち（かんまち） 神様が出雲大社から帰ってくるので。未婚に人は相手と一緒にやってくるようにと祈願する（出雲大社が縁結びの神だから）。

②藪（矢房）神社…地元では「やぶかみさま」と呼ばれている。小字小牟田にある。前は田んぼの中にあり大きな木が目印であったが、用水路を造るときに現在の場所に移したという。

③竈（そう）神社…鎌田さんは「さやじんじゃ」と呼んでいた。ここは御床松原集落の信仰を集めていて、一年に一回、正月に祝詞をあげてお祭りをするそうである。御床集落の人はそれには行かないそうである。

④松 雲 寺…照夫さん宅のすぐ隣にある。住職の跡継ぎがないので廃寺になるかもしれないとのこと。

⑤庚 申 さ ま…昔は毎月15日にご飯をあげており、正月には餅を飾っていたが、近頃ではそんなこともしなくなったそうである。3カ所ある。

⑥おおぎ(大木)さま…照夫さん宅から北に上ったところにある。未確認のためどんな状態で祭られているのか不明だが、周囲にある何軒かだけが信仰しているとのこと。照夫さんたちは参ったことはないそうだ。疫病をはらうためにお祭りしているそうで、4月15日、7月15日に何かお祭りを行っているとのこと（もしかしたら回数はもっと多いかも）。

⑦古 い お 宮 跡…御床集落を山に向かって登りつめたところ辺りにお宮があったそうである。
未確認。

その他、観音様、薬師堂などがある。

【その他いろんな話】

①照夫さん宅の屋号は「楠」というそうだ。由来は家に大きな楠があったから。

②鎌田文書（御床村検地帳）を所蔵している家は、鎌田龍一郎さん宅である。

③森畑溜池横の辺りは底なし沼の様な所だった。そこで、去年（1996年）埋め立てのようなことを行ってやっと田畑になったそうである。

④久家地区の小字、嘉永開の辺りは今でも地味が悪い。御床の辺りは良くなった。昔は、県道志摩前原線の辺りまで海だったのを埋め立てているからだそうだ。そのせいか前は田んぼの中から石がごろごろ出てきていた時期もあった。

⑤現在、「たもとなり」付近から森畑溜池の横を通る四車線の県道のバイパス線を計画しているそうだが、照夫さん曰く、「あんなもんだれがとおるとな」と言われていた。

⑥照夫さんは『糸島郡誌』をもっており（お父さんが役場に勤めていた関係から）、今回自分たちが訪問するということでそれを読み返してくれていた。そのなかで、日光東照宮を建てるための材木を可也山から切り出していたということを知ってびっくりされていた。

⑦御床地区は圃場整備がまだこれからの所であるので、調査に行くなら今のうちである。

⑧西林寺にある国宝の阿弥陀仏像に照夫さんは子供の頃登って遊んでいたそうだ。

【感想】

今回訪問した鎌田照夫さんは専業農家ではなく兼業農家で、建材店に勤めていらっしゃるということであり、そういう意味であまり「ほのけ」や水利慣行の話はきくことができなかったのが残念であった。しかし、約束の時間に大幅に遅れたにも関わらず、暖かく自分たちを迎えてお話をしていただき、しかもスイカまでごちそうになってしまった。おかげでとてもいい感じで今回の調査を終わることができた。この紙面を借りて鎌田照夫さんご夫妻に感謝の意を表したい。

